

## 第 24 回介護福祉士国家試験【午後分】

### やまだ塾の解答速報(1月29日実施分)

2012年2月1日 6:30 掲載

- 変更はその都度行う。(変更分は青字で表示する)

科目	問題	やまだ塾の解答	(参考) 簡易解説
発達と老化(8問)	69	③	介護保険法第9条第1号＝「市町村の区域内に住所を有する65歳以上の者(以下「第1号被保険者」という。)」と明記されている。
	70	①	「老性自覚」の出現年齢の個人差は大きい。
	71	⑤	老化とともに免疫機能が低下し、生体の防御力が低下する。
	72	②	心疾患とかゆみには直接の関連はない。
	73	①	骨は、加齢により、徐々に骨密度と骨量の低下がみられ、人によっては骨粗鬆症が発症する。
	74	④	高齢者のうつ病の症状では、うつな気分よりも、体の不調や痛みを訴えたりすることが多い。
	75	②	高齢者では、特徴的な症状が乏しく、無痛性のこともあり、突然元気がなくなり救急外来を受診するケースがある。
	76	②	慢性疾患(高血圧症、糖尿病など)が多い。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2012 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

認知症の理解(10問)	77	③	グループホームは、認知症高齢者が家庭的な環境と地域住民との交流の下、住み慣れた環境での生活を継続できるようにすることを目指すものである。
	78	④	親族以外にも法律や福祉の専門職、法人が、後見人に選任されることがある。
	79	①	認知症対応型通所介護(指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準第41条)が適切である。
	80	②	運動失調を起こす代表的な疾患としては、小脳疾患がある。
	81	③	慢性硬膜下血腫は、それほど重症ではない頭部外傷が原因で、出血は徐々に始まり、症状は数日、数週間、数か月も経ってから現れる。脳の損傷された部位に応じて、しつこい頭痛、安定しない眠気、錯乱、記憶障害、体の片側の麻痺などの症状が現れる。
	82	③	性格の変化や理解不能な行動を特徴とする疾患としては、若年性認知症の一つであるピック病がある。
	83	④	9つの設問より構成され、得点が10点以下の場合には、高度の認知症と考えてよいとされる。
	84	⑤	興味関心のあること、得意だったことをみつけ、役割意識を持てるよう工夫する。
	85	①	どうしてこういう妄想が出現するのかある程度理解できる内容で、例えば、「物盗られ妄想」場合では→大事な物の置き場所を忘れる→家族が盗ったなどである。統合失調症の了解できない妄想とは異なる。
	86	④	権利擁護事業＝成年後見制度の紹介、虐待の早期発見、消費者被害への対応

			など
傷害の理解(10問)	87	②	生活機能→社会機能→「活動」機能→作業遂行機能→家事機能(掃除, 洗濯, 整理整頓, 調理, 買い物など)
	88	⑤	障害者基本計画=「この障害者基本計画においては, 新長期計画における「リハビリテーション」及び「ノーマライゼーション」の理念を継承するとともに, 障害者の社会への参加, 参画に向けた施策の一層の推進を図るため, 平成 15(2003)年度から 24(2012)年度までの 10 年間に講ずべき障害者施策の基本的方向について定めるものである。」と明記されている。
	89	③	左片麻痺=障害されている脳の部位は右側である。
	90	③	大腸がんでは, 病状や手術の方法によっては, 消化管ストーマ(人工肛門)の造設が必要になる場合がある。
	91	⑤	「失語症者の聴覚的理解を補うには, 簡単なはっきりした言葉でゆっくりと話しかける。」(21 回介護福祉士国家試験リハビリテーション論での問題文のまま)
	92	③	疾患と障害を併せ持っているため, 「社会生活のしづらさ」に焦点を当てた支援が求められる。
	93	①	遂行機能障害=①目的に適った行動計画の障害(行動の目的・計画の障害), ②目的に適った行動の実行障害(自分の行動をモニターして行動を制御することの障害)
	94	②	「平成 12 年 知的障害児(者)基礎調査」の定義=「知的機能の障害が発達期(概ね 18 歳まで)に現れ, 日常生活に支障が生じているため何らかの援助を必要とす

			る状態にある者」
	95	④	社会性の発達・コミュニケーション能力に障害があり、強いこだわりが特徴である。
	96	⑤	地域自立支援協議会には、「権利擁護機能」があり、財産・金銭管理や消費生活上のトラブルにも対応する。
こころとからだのしくみ (12問)	97	⑤	・欠乏欲求＝①生理的欲求, ②安全欲求, ③愛情欲求, ④尊敬欲求 ・成長欲求＝⑤自己実現欲求
	98	③	退行＝耐え難い事態に直面したとき、未熟な段階に逆戻りしたようなふるまいをすること
	99	③	赤血球の主な機能＝ヘモグロビンにより体内に酸素を運搬する
	100	⑤	咀嚼(舌で食べ物を保持する)→嚥下(舌は口腔内の食べ物を集めて咽頭に送り込む)
	101	④	IADL＝ADLの尺度でとらえられない高次の生活機能を測定するものとして、1969年にM. ロートンにより提唱された。買い物や洗濯、電話、薬の管理、金銭管理、乗り物、趣味活動 など
	102	③	脊髄小脳変性症は難病指定疾患の一つで、脊髄や小脳が障害され、運動失調症が出現し、進行性である。
	103	④	沈下性肺炎＝長期 臥床などで発症しやすくなる。
	104	①	「日中は座位の生活にしましょう」等の具体的な活動内容を提示するのがよいとされる。
	105	①	摂食・嚥下過程における「先行期」＝食物を認識し、口まで食物を運ぶ

	106	③	ぬるめのお湯でゆっくり入浴すると筋肉が弛緩するが、高温入浴(42℃以上)では筋肉が収縮する。
	107	④	・「Rapid Eye Movement:REM」=急速眼球運動を伴う眠りで、浅い眠り ・「Non-Rapid Eye Movement:Non-REM」=深い眠り
	108	②	キューブラー・ロスの5段階=①否認、②怒り、③取り引き、④抑うつ、⑤受容
総合問題(12問)	109	②	間違いを指摘せず話を合わせる。
	110	④	家族が判断すべき事柄であり、家族の意思を尊重すべきである。
	111	④	・日常生活自立度Ⅳの判定基準=「日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする」 ・上記に相当するのは設問④である。設問⑤のように、ⅡaとⅣに継続性はない。 ・アルツハイマー型認知症では、時間・場所・人の順に見当識障害が進行することが一般的である。
	112	④	障害を認識し現実から逃避せず、生きる希望を与えることが大切である。まず援助者自身が人間相互の信頼を結ぶために中途障害者の気持ちを理解する。
	113	①	・移動支援事業=屋外での移動が困難な障害者について、外出のための支援を行う。 ・行動援護=自己判断能力が制限されている人が行動するとき、危険を回避するために必要な支援、外出支援を行う。 ・重度障害者等包括支援=介護の必要

			性が著しく高い人に、居宅介護等複数のサービスを包括的に行う。
	114	⑤	・不全麻痺＝運動機能や感覚の低下はあるが、肛門周囲の感覚があり、肛門括約筋を自分で締めることができる状態 ・膝折れ防止の介助が必要である。
	115	③	球麻痺＝延髄の運動核の障害によって、咀嚼、嚥下に障害をきたす。
	116	①	特定福祉用具販売の種目＝①腰掛便座、②特殊尿器、③入浴補助用具、④簡易浴槽、⑤移動用リフトのつり具の部分
	117	①	「医療・介護の連携」が重要なケースである。結婚式には体調万全で出席していただきたい。
	118	③	便秘による排便時の怒責は血圧を上昇させ、心臓への負担を増加させる。
	119	③	食事を一緒に作りながら、意欲・疲労の確認ができる。
	120	④	健康面や安全面から、「1階への転居について相談するよう勧める」は適切な対応である。